

スズメの天敵

今年も雪の季節に入り、庭先にスズメの餌台を設置した。早朝の雪寄せ作業に取り掛かると、電線上で数羽のスズメが私の作業を見守っている。そのように見えるが、エサ台に置いてくれるお米を待っているのだ。1時間後、餌台にくず米を与えて除雪作業が終了となる。

スズメは私が玄関に戻るのを見届けると、一斉に餌台に飛び込んだ。やっと美味しい餌にありつけたスズメたちが、突然餌台から飛び去り誰もいなくなってしまったのだ。どうしたのだろう。

数分後に数十羽の仲間を引き連れて戻ってきた。先発隊が餌の在りかを仲間知らせに行ったのでしよう。スズメは鳴き声で伝達しているのではないかとわかれてなりません。



餌台に群がる。

◇ 言葉を持つのは人間だけであり、鳥は感情で鳴いていると認識されていた常識を覆し、シジュウカラは20以上の単語を組み合わせて文を作っていることを世界で初めて解明した研究者が、東大准教授鈴木俊貴氏です。テレビでも紹介され、「僕には鳥の言葉が分かる」も出版されている。

この本を見てシジュウカラに言葉があるのならスズメにもスズメ語あるのではないかと思いを巡らせているが・・・。



最初は餌台の上で食べ始めた。



満員の餌台を順番待ち。

餌台に群がる幸せな行動が一月ほど続いたころ、突然天敵の猛禽類ハイタカが現れた。餌台に陣取り鋭い目つきで辺りを窺っている。当然スズメたちは逃げ去り、姿は見えません。

ハイタカは暫く周囲を眺めていたが、まもなく飛び去った。餌台の下をよく見たら、雪の上に赤い血痕が点々と散らばっているではないか。やはり犠牲者が出たようだ。ハイタカは餌台にスズメが集まるのを知っていたのです。

餌台を作らなければ犠牲者も出ないのではと考えたが、ハイタカは大自然の中で狩りをしながら命をつないでいるのです。

お腹を空かせた多くのスズメが生き延びるためにも、餌台はそのままにしておくことにした。がんばれ真冬のスズメたち。



落ちこぼれを食べる。



鋭い目つきで周囲をうかがうハイタカ。